

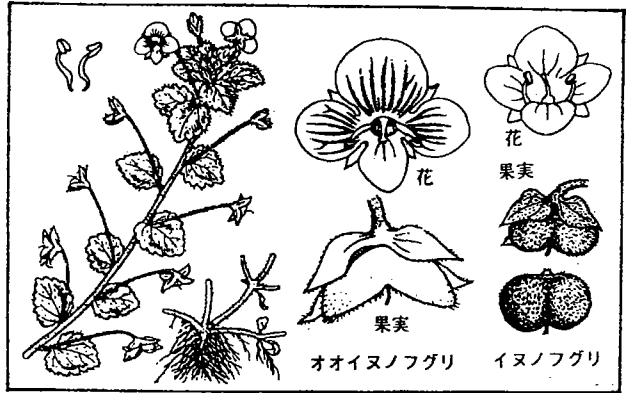
広島県の自然 (3)

元深小学校長 山田 義孝

「オオイヌノフグリ」

春の訪れを告げる花として知られるフクジュソウ、セツブンソウ、カタクリなどは、いわば表舞台に立つ花たちである。しかし、道端の日だまりにひっそりと咲き、静かに春を告げる野草たちも多い。そのひとつが瑠璃色のかわいらしい花をつけるオオイヌノフグリである。原産地はイランなどの西アジアからヨーロッパ大陸といわれ、日本には、明治の中ごろヨーロッパからアメリカ経由で渡来したらしい。繁殖力が強く今ではいたるところでみられる。

オオイヌノフグリが渡来する以前から日本に自生していたものにイヌノフグリがあるが、オオイヌノフグリが広がるにつれて残念ながら姿を消しているようであり、私もまだ見たことがない。全体に小型で、淡紅紫色の花は径三、四ミリメートル、北海道を除く日本各地に自生していたという。今でも山間部では見られるそう、深町にはまだ自生しているかもしれない。



花 果実
オオイヌノフグリ イヌノフグリ

イヌノフグリの名は果実の形を、犬の陰囊に見立てたもので可憐な花の姿にそぐわない感じもするが、細い花柄にぶら下がった果実を見れば、ユーモラスなその形と命名の妙に思わずほほ笑む人も多いだろう。同じく果実の形から、ヒョウタンソウ(瓢箪草)とよぶ地方もあるという。

深町の歴史

深町は三原市の東北部にあり、緑の山々に囲まれた静かな町である。中世の山陽道は、美郷村から稚子峠を経て上組を通って山中村に向かい三原に通じていた。現在では、一九九五年、九年かけて太郎谷パイパスが開通し、県道は車が多くなった。

深太鼓踊りは、豊作祈願・家内安全等を願って盆を中心に行われていた。室町時代に踊られたのがはじめてと言われ、今日まで青年団や壮年会の人々によって受け継がれてきた。四年前から小学校の六年生も運動会や秋祭りでも踊るようになった。

稚子峠の赤子石
これは稚子峠の頂上から東へ二〇〇mくらい下った林の中にある。享保一七年(一七三二年)のころ、な

昔の井戸
深町には井戸がたくさんある。入り口はせまく、中が広くなっているのが特徴だ。これは、少ない面積を利用して少しでもたくさん水をためるための昔の人の知恵だそうだ。

伝えよう わたしたちの深町
三原市立深小学校 6年



特産物

深町は昔から農業が盛んな町である。今日までいろいろなものが作られてきたが、現

柿
箱につめてある西条柿は焼酎で液をぬいてある。一さわし西



しべ一本と雄しべが二本ある。花粉学者、田中肇氏の観察によると、花は晴天の日の朝開き虫が止まると花は虫の重みで下向きに垂れる。虫は急いで左右の雄しべに抱きつき花粉が虫の横腹になすりつけられる。日が傾くと花はしぼみだすので、左右に離れていた雄しべは内側に曲がり、花粉が雌しべに触れて同花受粉も行なわれる。いわば二段構えの受粉法であり、確実に種子をつくる仕組みである。ほかにタチイヌノフグリもある。名のとおり、茎はほぼ直立する。ユーラシア大陸原産で、明治初年に渡来し、雑草化して全国に広まっている。花は径三、四ミリメートルと、やや小形でコバルト色である。花にも果実にも柄がないことで、オオイヌノフグリやイヌノフグリと区別されるという。

植物の世界で自生地から他地域に移り野性化して繁殖するようになったものを「帰化植物」というが、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリもその例である。野草の世界も国際化はますます進んでいるようで、在来種が少なくなっているのは残念であるが、これも時の流れというものだろう。

里いも
里いもの茎はばくちの背より高かった。おいしい里いもを作るには、よい土を作ることが大切だ。深の里いもは味がよいことでも有名だ。ばくちも、里いもを傷つけないようにほった。

丹波黒大豆
脱粒した黒大豆は大・中・小に分けて、お正月に間にあうように出荷する。米の三倍くらいの値段で売れるそうだが、それだけ手間もかかり、近年は生産農家も減ってきている。

一年間の集大成を見事に

高崎 壽郎

如水館中高等学校吹奏学部の第五回定期演奏会が、三月二一日文化会館で開かれた。心配していた雨もあがり、客席は開場後すぐ満席となった。吹奏楽用にアレンジした数々の曲の迫力ある演奏は、素晴らしい一語。演奏をバックに劇化など、工

謹んでお悔み申し上げます

★林 キヌエ様 九二歳 三月五日
★助永 七郎様 七五歳 三月二日

深町各種団体四月行事予定

- ◆小学校(幼)
●就任式 八日
●始業式 八日
●入学式 八日
●離任式 十日
●ツベルクリン注射 十日
●家庭訪問 十日
●同 十日
●参観日 二六日
●歓迎会 二六日
- ◆女性会
●親睦会上組 一七日
●同 中組 一八日
●同 下組 一八日
- ◆尚寿会
●総会 二六日

夫のあとをみられた。ソロも全体での演奏も、各々自信にあふれていた。部長挨拶で、三年間の苦勞と精進を聞き感動した。三年生の皆さん、ご苦勞様。

介護保険制度導入から二年目に入り、施設名が書かれています。在宅にも、施設名が書かれています。在宅介護には「バイク出動」のケースもかなりあり、きめ細かなサービスが今日も展開されています。高齢者も、高齢者福祉も「契約」となり、「権利意識」も一般化したようです。社会趨勢とは言え、保険による在宅介護の普及が家族の絆が弱まる傾向にあることは考えられます。過疎化する地方、中でも生活基盤の脆弱な農村は住民の高齢化が進み、「六〇歳の若者」という言葉がまかり通る現状です。七〇歳近い「若者」の目を通して介護保険を眺めてみました。介護保険そのものは各種報道機関が分析報道してくれませんが、現場の声、特にサービスを受ける側の声はほとんど報じられていないのではないのでしょうか。例えば言葉づかい。在宅サービスにいられた訪問者から見下した言葉がもたれることも、あるようです。不用意に使われる「おじいさん」。

「おばあさん」という表現には抵抗感があり、姓名がよいようです。訪問を受けている高齢者に宅の問題把握で上司が訪れられるようですが、「正直に答えられません」と話される方もあります。サービスを高めるには、「訪問者の質の向上」は避けて通れぬ課題です。そのための「ヘルパーの再教育は緊急の課題」と感ずるのは偏見でしょうか。

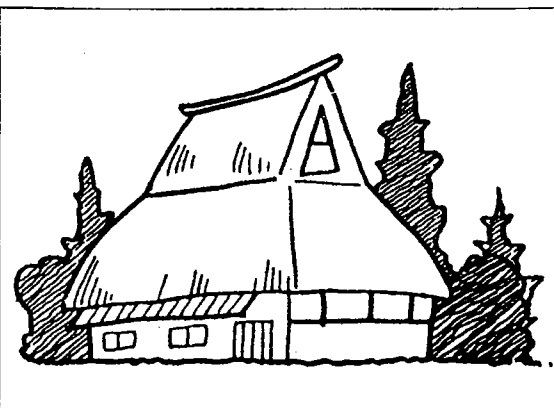
御調坂物語 (1)

石井 静夫

御調坂(ミトサカ)の道
御調坂は古くから尾道より久
井に通じる大切な交通路として
賑わっていたが、今は車社会。
国道や県道が整備された現代で
は、この山道を利用する人はほ
とんどいない。
尾道から久山田の椎木峠を越
へ深に入ると、綱掛峠を下った
所に苔むした大きな道標がある。
百数十年前に建てられたもので、
「右は三原へ一里半、左は尾道
へ三里半」と刻まれている。
ここからが御調坂で、約八km
にわたり史跡、名勝、伝説の物
語りが多く、村境の四ッ堂に至
るまではなだらかな道で、山と
谷と水の風景を楽しませてくれ
る。

その四ッ堂からの下り坂は険
しく、奥穂高のような厳しさで
ある。この道は「中国自然歩道」
の一部となっており、それぞれ
の地域の人々がよく手入れをし
ているので、険しい山谷でも、
山と森と水の音が調和し素晴ら
しいものがある。
この山を下った所までが御調
坂である。
長い道のりと険しい坂道を下
り、ここで坂道が「みてた」と
思い、それが「ミテサカ」にな
ったようで、三戸坂・御調坂と
変わったと伝えられている。

御調坂を過ぎると、長閑な田
園地帯の美生、本庄、今津野を
経て、野間の峠を越え久井の地
に入る。



この道は明治、大正から昭和
の初期まで、尾道と久井の両家
畜市場を結ぶ馬喰道(バクロウ
ドウ)と呼ばれ、牛買商人(ウ
シアキンド)をはじめ、多くの
人々が行き来したものである。
牛市が立つ頃になると、「モ
ウー、モウー」と啼く二・三疋
の牛を追いながら、狭い山道を
急ぐ牛商人の姿があった。
美生や本庄の農民は、出来た
農作物を尾道の人に売るために
朝早く家を出た。又、三原の神
明さんや尾道の港祭りに行く人
もこの道を利用していった。もち
ろん歩いて。

つい半世紀前頃までは、この
地域の住民にとっては、生活上
大変重要な道だったことがよく
わかる。

これからしばらく、御調坂に
残る史跡を紹介していきますが、
古者からの聞き伝えも多いこと
をご理解願いたいと思います。
次号は四ッ堂(堂さん) ▲▲

楽しかった冬期学園

深小 小林 沙央実

開校式が終わり、お昼ご飯を
食べると、いよいよスキー教室
のはじまりです。

私たち六年生は、二回目の冬
季学園をみんな楽しみにしてい
ました。すぐにもリフトに乗り
たかったのですが、インストラ
クターの先生に基礎から教えて
もらい、一時間くらい練習しま
した。

休けいの後、やっとリフトに
乗ることが出来ました。すべる
時、ゆっくり曲がりながらすべ
りました。冷たい風が顔にあた
って気持ちよかったです。晴れ
ていたのが曇り、山がきれい
に見えました。雪がシャーペ
ットのようにさらさらで、止ま
りにくくてこわかったです。楽
しくすべれました。

そして、目標だった「きれいに
曲がる」は、先生に教えても
らったことに注意しながら、自
分なりにうまくできました。

目標も達成できたと
楽しかったのでとても
よかったです。六年生
みんなで中級コースに
行けたことは、とても
よい思い出になりました。
▲▲
(この原稿は先月号でいただきましたが、
番号の都合で今月号になりました)

サンライズ大池

ケアホームソング

石井 良雄

一、大池南丘の上
オーマイホーム、サンライズ
みんな明るくなごやかに
談笑したり歌ったり
日々好日の新天地

二、三度の食事据え膳で
三時のお茶もありがたし
夏清風の中に座し
冬暖房に春を待つ
梅は咲いたかささんしゅうは

三、無為は身に毒老に毒
読む書く作る散歩よし
信仰奉仕ゲームよし
何もしないと呆けるでしょ
呆けたら道が分からない

四、さてさわやかに老いるには
まずは健康ほがらかに
いつも感謝を忘れずに
人に優しく思いやり
無欲無心で悠々と

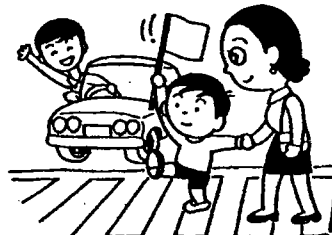
深小学校人事(敬称略)

- ◆就任
 - ▼学校長 藪本 幸子
 - ▼教諭 大村 哲郎
 - ▼養護教諭 徳田 恵子
- ◆転出
 - ▼学校長 瀬畑三代子
 - ▼教諭 大上 悦子
 - ▼養護教諭 藤田あさみ

入園 予定者

深小学校入学予定者

男子		女子		入園 予定者	
1	池田 悠	今里 絵里花	松本 陽香(上)	マツモト ハルカ	山下 ヤマシタ
2	岡村 快	馬越 うまこし	河原 カワハラ	津太(中)	華穂(中)
3	小林 耐智	小川 おがわ	西永 ニシニガ	徳幸(上)	オクユキ
4	佐藤 さとう	河原 かわはら	藤原 ふじわら	紗耶 さや	
5	砂田 すなだ	藤原 ふじわら	藤原 ふじわら	紗耶 さや	
6	中重 なかしげ	宮永 みやなが	宮永 みやなが	真歩 まほ	
7	野村 のむら	村田 むらた	村田 むらた	茜 あかね	
8	林 はやし	屋敷 やしき	屋敷 やしき	奈々 なな	
9	林 はやし	林 はやし	林 はやし	林 はやし	
10	増田 ますだ	増田 ますだ	増田 ますだ	増田 ますだ	



ゆとり教育と基礎学力

「このまま日本では育てたら子どものためにならない」。ある国立大学の博士課程で応用生物化学を専攻する中国人留学生、朱建忠さん(仮名38)は帰国の決意を固めた。

朱さんの長女は、小学三年生で中国から日本の公立校に転校し、この春、そのまま公立中学校に進む。二年前の一時帰国すると、娘の幼なじみはずでに英語をマスターしていた。算数の問題集を持ち帰って娘に解かせてみると、方程式を用いた文章など歯がたたない。以上は三月一日、日本経済新聞が「再び教

育を問う」の書き出しの一部です。

産業のコメと言われる半導体も国際競争力を失い、と報道されています。一般企業も日本の高賃金では経営が成り立たず、外国からの出稼ぎ労働者や、パートの採用で、高い労働経費を押さえているのが現状です。

四月から学校にも週五日制が導入され「ゆとり」が強調されていますが、少し長期(20年)の日本の置かれる姿を想像した場合、世界市場での位置はどうなるのだろうか、少なからず不安があります。

追いつけ、追い越せの目標で頑張ったつい先日までの努力が一朝に瓦解し、生活不安に悩む現状です。ゆとり教育の結果に思いを馳せることも許される無駄ではないでしょうか。▲▲